

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

2020年4月吹田市が中核市へ移行 西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市が 連携する「NATS」誕生



中核市4市が隣り合うことに気づいたのは、吹田市職員がぼんやりと地図を眺めていた時だったとか。NATSは西から順番に市の頭文字を取って命名。形もナッツに似ている?

吹田市が2020年4月に中核市へと移行し、同時に全国でも初めて4つの中核市(ほか西宮市・尼崎市・豊中市)が隣り合うことになる。今回の移行を機に、吹田市は大阪府からの権限移譲を進め、市民サービスの向上を図ると共に、4市が府県の枠組みを越えて連携する新たな“都市間ネットワーク”「NATS(ナッツ)」の形成を目指す。

中核市とは、政令で指定する人口20万人以上の市で、事務権限を強化し住民の身近なところで行政を行うことができるようにした都市制度。現在、府内では高槻市、東大阪市、豊中市、枚方市、八尾市、寝屋川市の6市が該当する。中核市の要件を満たす人口約37万人の吹田市は、多様化・複雑化する市民ニーズや超高齢社会の課題に柔軟に対応できるまちづくりのため、中核市移行を目指してきた。2017年には中核市移行推進本部を設置し、市長を含めて議論を重ね、市民との意見交換会や出前講座なども定期的に実施してきた。

主な市民サービスへの効果は①地域の保健衛生の推進②行政サービスの効率化・迅速化③特色あるまちづくりの推進の大きく3つ。中でも特に①に関して変化

が大きいという。これまでの市の保健衛生を担う機関は、健康相談や保健指導などを目的として保健師や看護師、栄養士などが配置される「保健センター」だった。そこに中核市などに設置される「保健所」が加わる。保健所には医師や獣医師、薬剤師などの専門家が新たに配置され、これら専門家の判断が必要な食中毒や感染症の恐れがあった場合、今後は市で一括して、迅速な対応が可能となる。また平常時においても、専門家の知見を活かすことで、きめ細かな地域保健、健康づくり施策の推進ができる。②については、これまで市への申請後にさらに府の審査が必要だった身体障がい者手帳の交付や、ひとり親家庭に対する修学資金などの貸付について時間が短縮できる。

今回、新たな取り組みとして注目されて

いるのが、西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市が連携する「NATS(ナッツ)」だ。それぞれが「関西住みたいまちランキング」で上位に位置するまちであり、交通の利便性が良いという立地を生かした連携などが考えられる。その第一歩となるのが2020年1月のキックオフミーティング「NATS 0(ナッツゼロ)」。各市長が一堂に会し、新たな都市間のネットワーク形成の方法を探る。



「NATS 0」ポスター

MCに吹田市在住の朝日放送テレビアナウンサー・堀江政生さんを迎え、対話を“見える化”する「グラフィックレコーディング」を用いて、来場者にその場の熱量を伝えながら、効率的な議論の拡散と収束を図る。「NATSの方向性についてはまだ何も決まっておらず、今回のミーティングが本当のスタートです。行政の話だけではなく、市民の皆さんが身近に感じられるような、文化・芸術やスポーツの繋がりも今後あるかもしれません。ぜひ関心を持っていただければ」と担当者は話している。

中核市連携シンポジウム「NATS 0」(ナッツゼロ)

2020年1月25日 大阪学院大学2号館(吹田市岸部南2) 9時45分~12時 入場無料・申し込み不要
問い合わせ先
吹田市中核市移行準備室 06-6155-5782

東京2020オリ・パラリンピックを盛り上げる スポーツイベントを箕面市で開催

1 2月14日(土)、箕面市の第二総合運動場体育館にて「オリパラふれあいイベント2019 in 箕面」が開催された。東京2020オリンピック・パラリンピックを盛り上げようと実施したこのイベントには、Jリーグガンバ大阪OBで元ワールドカップ日本代表の加地亮(あきら)さん、元アトランタ五輪代表の森岡茂さんが登場。「サッカーTOPアスリート対談」では、世界大会での経験を語ったり、子どもたちからの質問に実技を交え



「サッカーTOPアスリート対談」では子どもの時に行っていた練習法を紹介したり、過去の経験をふまえて質問に答えていた。

て答えるなど、トップアスリートから直接話を聞いて学べる貴重な機会となったようだ。午後からはパラリンピック競技の「ブラインドサッカー教室」が行われ、参加者はアイマスクで目隠しをし、音だけでボールを操る難しさを体感した。

そのほか、トランポリン元日本代表の廣田遥さんによる「トランポリン教室」なども開催。参加者からは「様々なスポーツに触れることができ、オリンピック・パラリンピックへの興味が強くなった」「もうすぐオリンピックが始まるんだなど実感してきた」などの声が聞かれた。



「オリパラ子どもサッカー教室」では、子どもたちを励ましながらも、負けまいと必死にボールにくらいつく森岡さん。



ブラインドサッカー体験では、アイマスクをつけて誘導者の声とボールの音を頼りにボール回しやシュートを行う。

豊中市でシェアサイクル 11月から実証実験開始

豊中市は11月1日から、市内にある複数のサイクルポート(専用駐輪場)で自転車の貸し出し・返却が可能なシェアサイクル「HELLO CYCLING」(運営:OpenStreet株式会社)の実証実験をスタートした。短時間・短距離移動を可能にする新交通システムとして、まちの活性化及び健康増進などの効果が期待されている。

市北部地域に比べ、市中部地域において東西方向の公共交通網が脆弱であることが課題であり、昨年2月に策定した「豊中市公共交通改善計画」に移動手段の補強としてシェアサイクルの導入をもちこみ、本格導入及び継続実施を見据え、有効性や課題を明らかにすることを目的として本実験を実施している。

利用者はインターネットのサイトやスマートフォンアプリから無料で会員登録すると、借りたい自転車のサイクルポートを検索・予約ができる。現地ですりかきで送られ



てくる暗証番号や登録済みのICカードを使うなどして自転車を開錠。利用後はサイクルポートに返却し、スマートフォンで決済する。「HELLO CYCLING」のサイクルポートであればどこでも返却できるため、例えば同サービスのサイクルポートが設置されている池田市や大阪市内などへの利用も可能だ。現在は阪急岡町駅より南の市域中南部27か所に、合わせて約70台の電動自転車を配置している。料金は15分70円または12時間1,000円。実験期間は2022年10月末までを予定している。詳しくは豊中市のホームページ参照。